

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	思考力・創造力	表現力	思いやり	能動的市民性
○ボランティア活動や交流館との連携など、地域との関わり（CSの取組）を通して、子どもたちが成長している。 ●保護者・地域住民への積極的な情報発信を行い、CSの取組を知ってもらうとともに、地域連携をさらに深めていく。	○地域行事やボランティア活動に主体的に参加する児童・生徒は年々増えており、それが児童・生徒の地震や地域への愛着につながっている。 ●中学校区として不登校数はまだ多い。 ●体力テストにおいて、県の平均値以上の項目がまだ少ない。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	○主体的に学び よく考える児童生徒 ○思いやりのある児童生徒	○自分なりに表現し伝え合う児童生徒 ○人や社会に貢献しようとする児童生徒		
		中学校区として統一した取組等	○住み続けられる町づくりを考えることを目的にした学習を核に各教科等と関連づけたカリキュラムを実施することで、めざす子ども像に迫る取組を行う。 ○生徒の実態を細やかに分析し、生徒のつまずきの要因に対応した指導と支援を行う。			

III 自 校

ミッション		育成する力 資質・能力	思考力・創造力	表現力	思いやり	能動的市民性	
変化の激しい社会の中で、未知な状況に自ら挑み続ける児童・教師		めざす 子ども像	自分で 	問いを自分事として捉え、自分なりの方法で考えて、解決することができる。	表現方法を時・相手・場面に応じて選択し、適切に伝えることができる。	挨拶や言葉遣い、言葉かけを意識して生活することができる。	次の活動の見通しをもち、自ら行動を切り替えることができる。
学校教育目標			みんなで	自分と友達の意見や考えの、共通点や相違点などを見つけ、新たな意見や考えを見出すことができる。	様々な表現方法を時・相手・場面に応じて選択し、適切に伝え合うことができる。	他の人のことを考えた行動や相手を大切にしている行動、言葉かけができ、協力して生活することができる。	周りに気を配り、きまりの意義を考え、行動に移せる。
挑む ～自分で〇〇 みんなで〇〇 挑み続ける千田小～			挑み 続ける	 日常的に行動する。 最後まで粘り強く取り組む。 「もっともっとすごい」を目指して修正する。 			
現 状（昨年度までの成果○と課題●）		研究	テーマ	つながる！学び ～自分事として理解し表現することを通した基礎的な知識・技能の定着～			
<児童生徒> ○「挑む」という学校教育目標を様々な場面で活用することで児童の意識が高まり、主体的に活動しようとする児童が増えている。 ○児童の関わりを意識した縦割り活動や学校行事の充実等により、互いを認め合う温かい声かけや行動が増えた。 ○委員会活動や体育的行事等の取組により、体力向上や食に対する意識が高まった。 ●挑んだ結果を児童自身が振り返り、次につなげていけるようにしていく必要がある。 ●掃除や挨拶、体力向上についての意識が高まりが見られるが、児童の実態把握が十分でない。 ●長期欠席児童は、昨年度36名（新規5名）である。 <授業> ○教科ごとのチームによる研究を推進することで、自由な発想のもとで授業研究が行うことができた。また、教科の特性に合わせた「学ぶ喜び」とは何かを明らかにしていくことで、児童の学習に対する意欲が高まった。 ●様々な学力調査において正答率が全国平均を下回っており、基礎的な知識・技能の定着を図るための授業づくりをしていく必要がある。			内容等	算数科「数と計算」領域を中心に、児童が自分事として理解し表現する授業づくりについて追究し、基礎的な知識・技能の定着を図る。			
		めざす授業の姿	◎「自分・他者・生活・他教科とつながる学び」を通して、理解と表現をくり返し、基礎的な知識・技能の定着を図ることのできる授業を目指す。 ○自分とつながる…自分との関連に気付いたり、自己を振り返ったりする。 ○他者とつながる…他者と対話しながら考えたり、相手意識をもって表現したりする。 ○生活とつながる…体験的な活動を楽しんだり、実生活に生かしたりする。 ○他教科とつながる…教科横断的に取り組んだり、他教科の学びに生かしたりする。				

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 千田小 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力セ 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力セ 評価	達成 評価	総合 評価
1	自ら考え学び、基 礎的な知識・技能 の定着を図る	★	新 規	・教職員が児童の実態 を適切に捉えて評価 し、指導の改善につ なげる。 ・学力テスト等で正答 率40%未満の割合 を20%未満にする。 ・家庭学習の習慣化を 図る。	・学力調査や単元テス トの結果の分析を通 して、児童の実態を 適切に把握する。 ・教材研究や研究授 業、校内研修などを 通して、授業の中で 理解と表現をくり返 しながら、考えを深 めることができるよ うにする。 ・家庭学習の方法を示 していく。	(1)児童アンケート「『自 分・他者・生活・他教 科とつながる学び』 が、学習内容の理解に つながったと感じる」 「授業がよくわかる」 の肯定的回答を80% 以上 (2)国・算の単元テストの 到達度60%未満の児 童の割合 前期：15% 後期：10% (3)家庭学習の時間 低学年：15分以上 中学年：30分以上 高学年：45分以上								
2	自己有用感育む 居場所づくりを 進める		継 続	・学校の全ての人が相 手を大切にする行 動、言葉を使え、安 心して登校できる 児童を増やす。 ・不登校児童を昨年よ りも減らす。	・児童、教員が自他の 良さを認め合うこ とができるよう、学校 全体での取組を行っ たり、学級活動の充 実を図ったりする。 ・QUアンケートを行 い、児童の実態を把 握し、一人ひとりに 合った支援、声掛け をできるようにす る。	(4)「自分のよさは、まわ りの人から認められ ている」と肯定的に答 える児童の割合を 80%以上 (5)「学校に来るのが楽し い」と肯定的に回答す る児童の割合を80% 以上 (6)長期欠席児童の数を 昨年度(36名)より減 らす。 (7)学級生活満足群に属 する児童60%以上								

[illegible]

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。